



清瀬市立清瀬第三中学校 ◇◇一人一人が輝く三中◇◇

学校だより臨時号

〒204-0002

清瀬市旭が丘 1-262

Tel 042-493-6313



学校 HP QRコード

学校評価報告① ～教育活動の取組と評価～

先日、開催された学校運営連絡協議会での資料を今年度の学校経営報告としてさせていただきます。

学校経営計画に基づく主な取組と評価及び次年度へ課題と対応策

1 学校経営計画に基づく主な取組と評価

【学校教育目標】

人間尊重の精神を基盤とし、希望に満ちた社会をめざす健康で明るく、知性ある人間を育成する。

- | | | | | |
|---|---------------|--------|--------------------------------|-----|
| 1 | 思いやりのある生徒 | ・・・・・・ | 心、思いやる力、(深く)考える力 | 思考力 |
| 2 | 主体的に学び 行動する生徒 | ・・・・ | (考えたことを)行動に移す力、
行動し続ける力、実践力 | 行動力 |
| 3 | 協力する生徒 | ・・・・・・ | 人間関係をつくる力 | 人間力 |

(1)短期的な教育活動への取組と評価

＜基盤＞

安全、安心、安定して生徒が学校生活を送るために、落ち着いた規律ある授業態度、生活態度を考え、身に付けさせる。そのためのミッションとして、『あ・じ・み・こ・し』を学校生活の基盤となる「心構え」として徹底し、全教育活動に展開していく。

『あ・じ・み・こ・し』

あ・・・「あいさつ」気持ちの良いあいさつ

じ・・・「時間」時間を守る意識と態度

み・・・「身だしなみ」その場に相応しい身なり

こ・・・「言葉遣い」その場に合った、相手の立場たった言葉の使い方

し・・・「姿勢」時・場所・相手に応じた姿勢

○規律ある授業として「あ・じ・み・こ・し」を徹底し、チャイム授業（始まり、終わり）から各教科で、始まりと終わりの挨拶を徹底し（教員自らも）魅力ある授業を展開し、主体的に学ぶ姿勢を養う。

○生活指導において「あ・じ・み・こ・し」を基盤とし、挨拶、時間、身だしなみ、言葉遣い、姿勢など基本的な生活習慣を大切にし、社会のルールやマナー、規範意識を身に付けさせる。

○生徒会、専門委員会を中心に、今までの活動で「あ・じ・み・こ・し」運動を取り入れ、自ら進んで、基本的な生活習慣の身に付ける態度を養う。

○保護者会、懇談会、地域行事等や学級、学年、学校便り等の発行物、学校ホームページ、Home&Schoolなどを活用し、保護者・地域への広報活動を通して理解、協力、支援を図る。

【評価及び今後の課題】

今年度、安全、安心な学校づくりのために授業・行事・部活動、その他の学校生活及び放課後の地域の対応等で様々な問題行動に全職員で対応してまいりました。しかしながら、安心、安全な学校生活が実現できていない事から保護者・地域から学校の対応について問い合わせをいただくこともありました。校長として、ふがいなく、力不足を感じるとともに生徒・教職員の安全を確保するための手段を模索する日々でした。学校評価アンケートから「楽しく学校に通っている」という項目に対して保護者、生徒からは、肯定的な回答が84%、82%となっています。しかし、そうでない回答で16%、18%の保護者、生徒が学校に対する思いや願いをどのように重く受け止め、これからどのように対策をしていくかが課題です。今年度は、登校時・休み時間・下校時の全職員での見守りや支援員の導入等で対応しているが十分ではないため、地域、保護者の力もお借りしながら、今後も引き続き、『あ・じ・み・こ・し』を基盤に安全、安心な学校づくりに取り組んでいく所存です。

1 「考える力」(思考力・判断力・表現力)の育成に努めるために、教科の学習活動にとどまらず、総合的な学習の時間、学校行事、部活動等、様々な教育活動で実践する。

2 学年対象の清瀬市学力調査、3 学年対象の全国学力・学習状況調査について以下の結果となっています。

【清瀬市学力調査 (2 学年)】

教科		国語					数学				
		全体	基礎	活用	知識・技能	思考・判断・表現	全体	基礎	活用	知識・技能	思考・判断・表現
校内平均正答率		64.1	67.1	46.4	69.4	60.2	44.6	50.8	23.9	50.2	35.6
市内平均正答率		69.8	72.1	56.2	73.5	67.0	50.0	56.0	30.4	55.8	40.8
全国平均正答率		69.2	71.3	56.1	72.8	66.4	50.0	55.0	31.4	54.9	42.0
R6	校内一市内	-5.7	-5	-9.8	-4.1	-6.8	-5.4	-5.2	-6.5	-5.6	-5.2
	校内一全国	-5.1	-4.2	-9.7	-3.4	-6.2	-5.4	-4.2	-7.5	-4.7	-6.4
R5	校内一市内	-6.3	-6.8	-5.3	-5.9	-6.5	-6.4	-4.8	-11.1	-6.2	-8.1
	校内一全国	-7.6	-8.6	-5.8	-6.8	-7.6	-4.2	-1.8	-11.1	-2.9	-8.7

【全国学力・学習状況調査 (3 学年)】

教科		国語			数学		
		平均正答率	知識・技能	思考・判断・表現	平均正答率	知識・技能	思考・判断・表現
校内		56.0	59.1	53.6	49.0	59.5	24.5
東京都		61.0	64.4	58.6	57.0	67.3	34.2
全国		58.1	62.0	55.4	52.5	63.1	29.3
R6	校内一東京	-5.0	-5.3	-5.0	-8.0	-7.8	-9.7
	校内一全国	-2.1	-2.9	-1.8	-3.5	-3.6	-4.8
R5	校内一東京	-11.0	-14.9	-7.9	-6.0	-7.0	-6.6
	校内一全国	-8.8	-14.2	-4.7	-3.0	-4.0	-2.4

今回の結果から、2 年生、3 年生ともに市内、都内、全国平均より下回っていることが分かります。

特に、「思考力・判断力・表現力」の観点で、他の観点と比較しても低い値です。このことから、授業スタンダードを作成し、日々の規律ある授業づくりから「考える力」(思考力・判断力・表現力)の育成を目指し、校内で研修

を進めています。「考えさせる授業」「ねらいから見通しをもたせ、振り返りのある授業展開」「学校図書館、ICT を活用」等から校内で研修を進めてきました。生徒の実態、各教科の課題等から分科会に分かれ、研究授業毎に分析、検討をしています。

また、学校評価アンケートから「規律ある授業を通して、教え方を工夫し、分かりやすい授業を行っている」という項目に対して、上位(そう思う・どちらかというと思う)の回答で保護者は 69%、生徒は 86%、教職員は 92%となっています。校内研修を通して、授業展開の工夫を意識している教職員と生徒の回答には多少の差があり、保護者については、より大きな差があります。さらに、「熱心に授業や家庭学習に取り組んでいる」という項目に対して、上位の回答は、保護者は 60%、生徒は 73%、教職員は 15%となっています。教職員の授業力や生徒の学習意欲・学習習慣の差や保護者の学習、学力、授業に対する価値観の違いなども影響があると思われる。

しかし、学校は「分かる授業」「魅力ある授業」「考えさせる授業」を追求することが、学力の向上そして生活指導の課題解決の根幹になることを自負して今後も授業力の向上を目指していきます。

2 誰一人取り残すことのない教育活動を展開していく。

・生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導、支援が求められています。本校では、サポートルーム、ステップルーム、それ以外の不登校生徒、特性に応じた指導・支援が必要な生徒について毎月 2 回の校内委員会を開いています。特別支援教育校内委員会では、リストを作成し、報告、検討している。ステップルームにおいては、今年度は、新たな支援員を配置し、「居場所づくり」「絆づくり」のため見守り体制を強化しました。学校評価アンケートでは、「一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援を行っている」という項目に対して、上位(そう思う・どちらかというと思う)の回答で保護者は 79%、生徒は 92%、教職員は 100%となっています。生徒一人一人の適正な指導・支援について校内委員会では検討しているが、日々の授業、学校生活で実践していくことは簡単ではないため十分な評価が得られないと思われます。サポートルームについては、保護者・地域には、周知されていないも予想がつきます。また、「不登校生徒に対する支援に積極的に取り組んでいる」という項目に対して、上位の評価は保護者 62%、生徒 82%、教職員 100%となっているのも、未然防止も含め適切で丁寧な対応、支援が求められていることはわかります。

・補充学習として定期考査前や放課後に質問教室等、夏休みの学習教室を実施しました。さらに、生徒会では、自習室を開設し、学習・家庭学習のサポートを行っています。

・年間6回のふれあいアンケートを実施し、生徒一人一人に寄り添う教育相談を充実しています。学校評価アンケートでは、「困った時、悩みを抱えている生徒に対して適切に助言・対応するなど、相談活動を充実させている」という項目に対して、上位（そう思う・どちらかというと思う）の回答で保護者は81%、生徒は84%、教職員は100%となっています。保護者、生徒とも高い数値となっています。今後も生徒、保護者の声に耳を傾けて対応していきます。

3 地域と協働した学校経営の構築 ～令和7年度開設「コミュニティ・スクール」に向けて～

令和7年度よりコミュニティ・スクール開設に向けて、コロナ禍で中止となっていた地域行事等に積極的に参加しています。地域づくりの会のイベント、旭が丘団地夏祭り、青少協のこども祭り、旭が丘団地自治会のイベントなどで年間を通じて吹奏楽部やボランティア生徒が参加しています。学校評価アンケートでは、「PTA 活動、青少協、地域団体等の連携や地域行事に参加するなど「地域と協働した学校」の実現を図っている」という項目に対して、上位（そう思う・どちらかというと思う）の回答で保護者は86%、生徒は51%、教職員は92%となっています。学校ホームページやHome&School等で配信しているため保護者への周知もあり高い評価を得ているが、生徒は51%と低い値から参加する生徒は限られており、参加意識も高くないことが予想できます。

今後もより多くの子どもたちに貴重な体験や経験させることで、地域の方から多くの感謝の言葉をいただくことで、達成感や自己肯定感を高めていきたいと考えています。

また、昨年度より清瀬空手道連盟から講師を派遣した授業やNPO 法人きよせラボによる命の教育講演会、今年から芝生事業で部活動と地域のサッカー団体との連携イベントの開催など、校内でも地域の力を活かした教育活動を展開しています。今後も、学校支援本部と連携し、地域に信頼される学校づくりのために、地域と協働した学校経営の骨子として取り組んでいきます。

4 ICTを活用した校務改善の推進(校務DX)と学校運営の充実 ～「チーム三中」の確立～

様々校務が載積する中で、より効率よく校務改善を図るために ICT を活用した学校運営に取り組んでいます。

- ・朝の生徒の欠席、遅刻等の連絡を Home&School を活用
- ・電話対応の時間の削減や留守電話機能を活用して勤務時間外の職務の適切な遂行
- ・テスト採点ソフトの活用で時間削減、ミスの防止
- ・生徒、保護者配布物（学級・学年・学校便り、その他）、各教科・部活動等の連絡などを Home&School で配信することで印刷時間の削減や放課後、休業日・休日の配信でタイムリーな連絡が可能。また、カラーでの写真、イラスト等の印字が可能のため見やすい配布物となる。そしてペーパーレス化によりコスト削減、SDGsにもつながっています。
- ・保護者とのコミュニケーションツールとしての学校評価の効果的な運用を図り、オンラインを生かした評価方法（Forms）を工夫して実施しています。しかし、保護者アンケートでは、回答率が4割程度だったため今後の課題となります。
- ・職員会議等の資料を校務用パソコンで共有することで、個人情報の管理の徹底及び印刷・配布時間の削減、ペーパーレス化にもつながります。
- ・Home&School で校外の学習活動（宿泊行事も含む）の様子をタイムリーに保護者へ配信しています。

以上のように、校務改善に努め、働き方改革につながりより強固な「チーム三中」を確立し、そして、地域・保護者へ教育活動のより多くの情報や報告を提供することで、開かれた学校づくりにつなげていきます。

5 特色ある教育活動 ～国際理解教育の推進～

○日本人としての自覚と誇り「伝統文化の理解」（空手）

昨年度より、保健体育科の武道を「空手道」とし、清瀬市空手連盟からの派遣し、空手道の心得えとして「礼節」「正義感」「道徳心」等の日本伝統文化の良き礼儀作法を学び、互いを敬う気持ちを育むことを目的としています。また、地域との連携を図るとともに主体的に身体を動かす運動習慣の確立や生涯スポーツとしての取り組みを目標としています。さらに、空手の授業発表を1・2年生は運動会で行い、保護者、地域から良い評価を得ることができています。

○豊かな国際感覚「異文化理解」（ハカ）

・ニュージーランドの民族舞踊としての「ハカ」を通して異文化を理解し、これを尊重する態度や異なる文化をもった人々と共に生きていく態度の育成するために、外部講師を派遣し学んでいます。また、オリジナルなハカを創作することにより、「主体的に学び、行動する力」を高め、「表現する」ために共に考え協働し深い学びを実現し、運動会で発表することが伝統行事となっています。

(3)学校評価のまとめと分析

①令和6年度のまとめ

清瀬第三中学校 令和6年度学校評価																			
			保護者				生徒				教職員				学連協（外部委員）				
			①そう思う ②どちらかというそう思う ③どちらかというそう思わない ④そう思わない				①②③④				①②③④				①②③④				
安全・安心な学校	1	楽しく学校に通っている。 教職員：楽しく学校に通えるように指導の工夫をしている。	34%	50%	12%	4%	36%	47%	10%	7%	8%	92%	0%	0%					
			84%		16%		82%		18%		100%		0%		0%		0%		
	2	学校の施設は、安全面に配慮され、整理・整頓ができてい る。	11%	68%	15%	6%	26%	57%	12%	5%	8%	54%	38%	0%					
			79%		21%		83%		17%		62%		38%		0%		0%		
確かな学力の向上	3	学校は、規律ある授業を通して、教え方を工夫（少人数指導）し、わかりやすい授業を行っている。	10%	59%	24%	7%	34%	52%	9%	5%	15%	77%	8%	0%					
			69%		31%		86%		14%		92%		8%		0%		0%		
	4	お子さんは、熱心に授業や家庭学習に取り組んでいる。	13%	47%	22%	17%	21%	52%	17%	10%	0%	15%	69%	15%					
			60%		40%		73%		27%		15%		85%		0%		0%		
	5	学校は、生徒が家庭学習に取り組みやすくするための指導や工夫を行っている。	10%	60%	23%	7%	26%	51%	15%	8%	0%	85%	8%	8%					
豊かな心の醸成	6	学校は、困ったときや悩みを抱えている生徒に対して適切に助言・対応するなど、相談活動を充実させている。	18%	63%	10%	8%	35%	50%	11%	5%	38%	62%	0%	0%					
			81%		19%		84%		16%		100%		0%		0%		0%		
	7	学校は、外部人材（職場体験、マナー講座、3年模擬面接講座、命の講演会、3年救急救命講習会、2・3年がん教育講座等）を活用し道徳教育やキャリア教育の充実を図り、自他の生命を尊重する意識を高めている。	19%	68%	11%	2%	43%	50%	3%	4%	46%	54%	0%	0%					
健やかな体の育成	8	学校は、授業や部活動、体育的行事などを地域の専門家（1・2年空手、卓球部・吹奏楽部・バスケットボール部バレーボール部の部活動指導員等）を活用して、生徒の安全意識・健康や体力の向上を図っている。	16%	66%	16%	2%	47%	45%	4%	4%	31%	69%	0%	0%					
			82%		18%		92%		8%		100%		0%		0%		0%		
	9	学校は、保健だより、歯科講話、食育、食物アレルギー対応等で生徒の健康管理などに配慮し、安全や健康、食への意識を高め、自ら改善しようとする態度を育てている。	23%	74%	3%	0%	48%	46%	2%	4%	62%	38%	0%	0%					
特別支援教育の充実	10	学校は、一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援を行っている。（特別支援教室「サポートルーム」等を含む）	14%	65%	17%	4%	45%	46%	4%	5%	54%	46%	0%	0%					
			79%		21%		91%		9%		100%		0%		0%		0%		
その他	11	学校は、通常学級と特別支援学級との交流活動（行事等を含む）を積極的に行っている。	15%	62%	16%	7%	35%	44%	12%	9%	46%	54%	0%	0%					
			77%		23%		80%		20%		100%		0%		0%		0%		
	12	学校は、PTA活動、青少協、地域団体等の連携や地域行事に参加するなど、「地域と協働した学校」の実現を図っている。（生徒：自分は、・・・）	24%	62%	10%	3%	19%	32%	27%	22%	23%	69%	8%	0%					
			86%		14%		51%		49%		92%		8%		0%		0%		
	13	学校は、学校全体に関わる教育方針や教育活動などを学校便りやホームページ、Home&school等で伝える努力をしている。	16%	71%	10%	2%	36%	52%	7%	5%	62%	38%	0%	0%					
			87%		13%		88%		13%		100%		0%		0%		0%		
	14	学校は、学校図書館の活用を推進するために、学校図書館の活用及び移動図書館の設置など通して、お子さんが本に触れる機会を増やす努力をしている。	50%	43%	6%	0%	31%	52%	11%	7%	8%	92%	0%	0%					
			94%		6%		83%		17%		100%		0%		0%		0%		
15	学校は、不登校生徒に対する支援に積極的に取り組んでいる。（年間5回のアンケート、教育相談、ステップルームの開設等）	9%	52%	31%	7%	34%	48%	13%	5%	8%	92%	0%	0%						
		62%		38%		82%		18%		100%		0%		0%		0%			
		12%	62%	20%	6%	39%	43%	11%	7%	54%	46%	0%	0%						
16	学校では、運動会や合唱コンクールなどの学校行事や生徒会活動、ボランティア活動などにお子さんは積極的に参加している。	73%		27%		82%		18%		100%		0%		0%		0%			
										0%	100%	0%	0%						
17	本校は、小学校との接続・連携を充実させ、学びの連続性を保持することに努めている。									100%		0%		0%		0%			
										33%	67%	0%	0%						
18	今年度の校内研修を通じて、授業改善につながった。									100%		0%		0%		0%			

②経年比較

清瀬第三中学校 令和6年度学校評価＜経年比較＞													
		保護者				生徒				教職員			
		①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④
①そう思う													
②どちらかというと思う													
③どちらかというと思わない													
④そう思わない													
学・校・安・心・な	1	生徒は、楽しく学校に通っている。 教職員：本校は教育目標に沿って、教育活動全般が実施されている。	R6	84%	16%	82%	18%	100%	0%				
			R5	81%	18%	80%	20%	94%	6%				
	2	学校の施設は、安全面に配慮され、整理・整頓ができてい る。	R6	79%	21%	83%	17%	62%	38%				
			R5	89%	10%	86%	14%	67%	28%				
確 かな 学 力 の 向 上	3	学校は、規律ある授業を通して、教え方を工夫（少人数指 導）し、わかりやすい授業を行っている。	R6	69%	31%	86%	14%	92%	8%				
			R5	65%	35%	83%	16%	89%	11%				
	4	お子さんは、熱心に授業や家庭学習に取り組んでいる。	R6	60%	40%	73%	27%	15%	85%				
			R5	57%	43%	68%	32%	17%	83%				
	5	学校は、生徒が家庭学習に取り組みやすくなるための指導や 工夫を行っている。	R6	70%	30%	77%	23%	85%	15%				
			R5										
	豊 か な 心 の 醸 成	6	学校は、困ったときや悩みを抱えている生徒に対して適切に 助言・対応するなど、相談活動を充実させている。	R6	81%	19%	84%	16%	100%	0%			
				R5									
7		学校は、外部人材（職場体験、マナー講座、3年模擬面接講座、命の講演 会、3年救急救命講習会、2・3年がん教育講座等）を活用し道徳教育や キャリア教育の充実を図り、自他の生命を尊重する意識を高めている。	R6	87%	13%	92%	8%	100%	0%				
			R5	92%	7%					100%	0%		
健 や か な 体 の	8	学校は、授業や部活動、体育的行事などを地域の専門家（1・2年空手、 卓球部・吹奏楽部・バスケットボール部バレーボール部の部活動指導員 等）を活用して、生徒の安全意識・健康や体力の向上を図っている。	R6	82%	18%	92%	8%	100%	0%				
			R5	77%	23%					94%	6%		
	9	学校は、保健だより、歯科講話、食育、食物アレルギー対応 等で生徒の健康管理などに配慮し、安全や健康、食への意識 を高め、自ら改善しようとする態度を育てている。	R6	97%	3%	94%	6%	100%	0%				
			R5	95%	5%	91%	8%	100%	0%				
特 別 支 援 教 育	10	学校は、一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援を行っ ている。（特別支援教室「サポートルーム」等を含む）	R6	79%	21%	91%	9%	100%	0%				
			R5	83%	17%	78%	22%	100%	0%				
	11	学校は、通常学級と特別支援学級との交流活動（行事等を含 む）を積極的に行っている。	R6	77%	23%	80%	20%	100%	0%				
			R5	84%	15%	81%	18%	100%	0%				
そ の 他	12	学校は、PTA活動、青少協、地域団体等の連携や地域行事に 参加するなど、「地域と協働した学校」の実現を図っている。 （生徒：自分は、・・・）	R6	86%	14%	51%	49%	92%	8%				
			R5	83%	16%					78%	22%		
	13	学校は、学校全体に関わる教育方針や教育活動などを学校便 りやホームページ、Home&school等で伝える努力をしてい る。	R6	87%	13%	88%	13%	100%	0%				
			R5	93%	7%					100%	0%		
	14	学校は、学校図書館の活用を推進するために、学校図書館の 活用及び移動図書館の設置など通して、お子さんが本に触れ る機会を増やす努力をしている。	R6	94%	6%	83%	17%	100%	0%				
			R5					0%	17%	61%	22%		
	15	学校は、不登校生徒に対する支援に積極的に取り組んでい る。（年間5回のアンケート、教育相談、ステップルームの 開設等）	R6	62%	38%	82%	18%	100%	0%				
			R5	75%	23%					100%	0%		
	16	学校では、運動会や合唱コンクールなどの学校行事や生徒会 活動、ボランティア活動などにお子さんは積極的に参加して いる。	R6	73%	27%	82%	18%	100%	0%				
			R5	88%	12%	84%	15%	100%	0%				
	17	本校は、小学校との接続・連携を充実させ、学びの連続性を 保持することに努めている。	R6									100%	0%
			R5										
	18	今年度の校内研修を通じて、授業改善につながった。 （R5：今年度の校内研修を通じて、特別支援教育の理解が 深まった。）	R6									100%	0%
			R5									94%	6%

学校評価分析

- 1 概ね良好な評価となっている。下位の回答（どちらかというと思わない・そう思わない）保護者 16%、生徒 18%では、様々な生活指導上の課題があり、安全、安心な学校とはなっていないのも現状である。今後も地域・保護者や教育委員会、外部機関と連携し、全職員で取り組んでいく。

<経年比較>

保護者、生徒とも肯定的な評価が上がっているのは、このような状況に慣れてしまっていて、それなりに楽しく学校に通っているとすれば、良い結果とはいえない。

- 2 保護者、生徒は概ね良好な評価となっている。教員からは、上位 62%と低めの評価となっている。一部の老朽化した箇所、破損箇所や故障、安全対策面で、問題点があると捉えているようである。老朽化した箇所の点検、破損の対応など火災、地震対策など安全面に十分に配慮していく。

<経年比較>

昨年度よりも低い評価となっている。老朽化だけでなく、生活指導上の破損等で、安全面の配慮、再発防止の観点から使用禁止、侵入禁止の表示等があるのも原因の一つであると考ええる。

- 3 保護者からは上位（そう思う・どちらかというと思う）の回答での評価（69%）が低い値となっている。授業参観、学力調査等の結果、定期考査等の得点、評価・評定の結果が要因として考えられる。授業規律、基礎学力定着に向けての授業改善は、今後の課題である。来年度の研修計画を検討中である。

<経年比較>

昨年度より肯定的な評価が上がっている。土曜授業の授業参観の増加、研修により授業改善の結果が表れていることを願いたい。

- 4 保護者、生徒とも反省点や課題があるという結果がでている。特に教員からは、低い評価となってる。家庭学習という文言が保護者、生徒、教員からの評価が低くなったと考えられる。家庭学習の習慣化については、学校でできること、家庭に協力してもらうこと、小学校との連携を今後も課題として取り組んでいく。

また、授業態度、課題への取組等から問題点があると評価しているようである。授業規律、指導方法の観 points の転換、個に応じた指導等の学校側の課題として今後課題解決していく必要がある。

<経年評価>

昨年度より若干数値が上がっている。家庭学習について学校としての取り組みが学年単位で取り組みを進めていることが影響していると思われる。

- 5 今年度から取り入れた項目である。家庭学習が定着しないのは、分かる授業のもと、授業での振り返りの方法や適切な課題や課題の進め方の指導が十分でないことも予想される。保護者 70%、生徒 77%となっており課題が残る。課題を持ち帰らなかったり、小テストの課題を与え、出題が予想できるものでもやらない状況から、粘り強く指導していく必要がある。

- 6 今年度から取り入れた項目である。「誰一人取り残さない学校づくり」の一環として年間 6 回のアンケート実施に伴う教育相談や日頃からの寄り添う声掛けにより、不登校対策、いじめの未然防止につなげている。保護者、生徒とも肯定的な回答が高くなっている。今後もスクールセラー、外部機関の活用や特別支援教育校内委員会で情報を共有していく。

- 7 概ね良好な評価となっている。様々な協働的な体験活動から達成感、成就感を得ることで自己肯定感、自己有用感を高め、生きる力の育成に向けて、さらに地域との連携により多くの学びの場を作り育ていく。

<経年比較>

保護者の回答で昨年度より肯定的な回答が 5 ポイント下がっている。引き続き、道徳教育、キャリア教育を推進し、命の大切さについて意識を高めていく。

- 8 保護者、生徒とも高い評価となっている。部活動の外部指導員が十分に配置できなかったことは課題である。

ハカや空手は今後も特色として推進していきたい。

＜経年比較＞

昨年度より 5 ポイント高くなっている。学校ホームページや Home&School での情報発信が影響したと考えられる。

9 良好な評価となっている。養護教諭、栄養士、管理職を中心に健康管理、安全な食の提供、食育の推進、危機管理体制など、学校生活の根幹となる無事故な健全育成と健康、食への関心を高めていく。

10 概ね良好な評価となっている。個別の指導計画作成等を進め、より一人一人の生徒に適した指導・支援を進めていく。

＜経年比較＞

保護者の回答で昨年度より 4 ポイント低くなっている。気になる面であるが、校内委員会を中心に全職員に共有しながら進め、学校ホームページや Home&School 等で情報発信していく。

11 概ね良好な評価となっている。昨年度開級した特別支援学級と通常学級との交流は、行事活動、委員会活動部活動以外に今年度は、教科でも実施している。

＜経年比較＞

保護者の回答で昨年度より 7 ポイント低くなっている。気になる面であるが、引き続き交流及び共同学習を進め、学校ホームページや Home&School 等で情報発信していく。

12 保護者の回答（86％）は高い評価であるが、生徒の回答（51％）と低い評価となっている。学校ホームページや Home&School 等で配信しているため保護者への周知もあり高い評価を得ているが、生徒は 51％と低い値から参加する生徒は限られており、参加意識も高くないことが予想できる。今後もより多くの子どもたちに貴重な体験や経験させることで、達成感や自己肯定感が高めていきたい。

13 概ね良好な評価となっている。学級、学年、学校便り等は、定期的に発行している。学校ホームページも日々の学校生活の様子や給食の献立、行事予定等も毎月掲載している。また、Home&School の活用も学年便りやその他の発行物、校外行事等の様子なども保護者へ提供している。今後も、ペーパーレスの観点からの有効的に活用していく。

14 保護者、生徒とも高い評価となっている。学力調査の結果からも、図書館利用率は低い。国語科では、1 年生でポップコンテストに参加、ビブリオフォーラムの参加、調べる学習コンクールでも受賞するなど活動は行っている。また、図書委員会を中心に、「読書の木」「図書館便りの発行」「図書給食」を行っている。そして、今年度は、移動図書館を 2・3 階の渡り廊下に設置し、多く生徒の図書に触れ、良さを味わってもらえるようにした。今後は、生徒が落ち着いて読書・調べ学習を行うことができる安らぎのある環境づくりや知的好奇心を醸成する開かれた「学びの場」としての環境を整えていきたい。学校図書館年間計画を作成し、各教科、領域で横断的に図書館を情報学習センターとして機能させ利活用していく。

15 保護者の肯定的な評価（62％）がやや低めである。本校では、「誰一人取り残さない学校づくり」のための方策として、不登校対策室として「ステップルーム」を令和 2 年から開設している。過去 3 年間で不登校出現率が減少していることもその成果である。教室に入れない生徒への居場所づくりや継続した学びを目的としてオンラインでの授業、ボランティア等の支援員の配置、教室環境の整備など様々な対策を講じている。今年度は新たに支援員が配置され、見守り体制が強化された。その他にも、欠席生徒へのケアや聞き取り等で未然防止、早期発見を行い、スクールカウンセラー等の活用で早期対応を行っている。また、外部機関等の連携も進めていき、家庭との情報共有を密にし魅力ある学校づくりに向けて取り組んでいく。

16 概ね良好な評価となっている。

＜経年比較＞

昨年度よりポイントが下がっている。学校行事や生徒会活動、ボランティア活動は、本校の特色の一つである。昨今のコロナ禍で縮小されてきている学校が多い中で、コロナ前から変わらず生徒、保護者、地域の要望もあり縮小をしていない。生徒の体験、経験からの成就感、達成感を味合わせ、自己有用感を高めていきたい。

17 小中連携は今年度から取り入れてた項目である。今後は、保護者に理解を求めながら、清明小学校と連携し、学力だけでなく、様々連携を進めていき、9年間の連続した教育活動を実現させていく。

18 今年度は、授業改善をテーマとして年間2回の研究授業を実施して取り組んだ。授業スタンダードを作成し今求められている授業、実態に合った授業展開等を各分科会で協議してきた。来年度は、タブレット端末を活用した授業を視野に入れてテーマ設定をしていく予定である。また、小中で連携していきながら課題発見に努めていく。

(4) 生徒授業アンケート結果と分析

生徒授業アンケート		できた	まあできた	あまりできなかった	できなかった
授業開始のチャイムで着席している。	R6	67%	31%	0%	1%
		99%		1%	
	R5	55%	38%	2%	1%
		93%		3%	
忘れ物などなく授業準備ができている	R6	53%	41%	4%	2%
		94%		6%	
	R5	38%	45%	5%	2%
		83%		7%	
私語をしたり寝たりしないで真剣に授業を受けている	R6	39%	43%	15%	3%
		82%		18%	
	R5	30%	35%	12%	4%
		64%		16%	
発言や質問をするなど積極的に授業に参加している	R6	24%	30%	34%	11%
		55%		45%	
	R5	19%	25%	25%	12%
		44%		37%	
ノートは板書だけでなく先生の言葉や自分の気付きなどをメモしている	R6	30%	31%	29%	10%
		61%		39%	
	R5	25%	27%	18%	15%
		52%		33%	
先生の指示や指導に沿って授業を受けている	R6	61%	35%	3%	1%
		96%		4%	
	R5	51%	37%	2%	1%
		88%		3%	
わからないことは、先生へ積極的に質問などして解決に努めている	R6	20%	37%	32%	10%
		58%		42%	
	R5	17%	25%	22%	9%
		42%		31%	
家庭学習（宿題、予習、復習など）は、計画的に毎日行っている	R6	18%	33%	30%	18%
		52%		48%	
	R5	12%	28%	23%	17%
		40%		40%	
授業の中で「わかった。できた。」と学ぶ喜びを感じることがある。	R6	38%	39%	13%	9%
		77%		23%	
	R5				
ICTを活用した授業は自分の学力向上（基礎・基本の定着や深い学び）に役立っている。	R6	33%	49%	12%	6%
		82%		18%	
	R5				
地域の方々の協力を得ながら学習する機会は、自分にとって充実した学びになっている。（例：1年生科講話、2年生職業講話、3年生ちゃんプロジェクト、全学年命の教育講演等）	R6	50%	40%	6%	5%
		89%		11%	
	R5				

生徒授業アンケートの経年比較から、1～8までの項目について全て、昨年度よりポイントが上回っている。今年度、生徒自身が「あ・じ・み・こ・し」を意識した授業に対する姿勢と教員が授業スタンダードから授業規律を意識した結果が表れている。また、生徒会活動での各専門委員会や各学年でのチャイム授業、授業態度調査、置き勉強チェック、定期試験前の予想問題作りなど様々な取り組みに良い影響となっている。

しかし、「4 発言や質問をするなど積極的に授業に参加している」「5 ノートは板書だけでなく先生の言葉や自分の気付きなどをメモしている」「7

わからないことは、先生へ積極的に質問をしている」「8家庭学習は計画的に毎日行っている」項目については、低い自己評価となっており、授業に対する興味関心や好奇心、探究心が不足していることが原因である。これは、生徒自身の課題であるとともに、授業者が引き出さなければならない授業展開が求められる。ねらいから見通しのある授業づくり、教材や教具の工夫、発問の仕方、板書の工夫、ICTの活用などの研究を進めていく必要がある。

9～11の3項目については、小中連携推進計画の指針となる項目である。

概ね良い結果となっているが、授業での「わかった、できた」と学ぶ喜びを味わえる授業はさらに小・中学校で共通の課題である。「わかった、できた」と感じた時に達成感、成就感へとつながり、先に述べた生徒の授業への取り組み方の原動力となる。